



平成26年10月31日(金)
校長通心 No.33 校長 馬場教二



試されている (宮澤章二)

—— 走りぬく
—— やいぬく
—— 生きぬく

そんな あいふれた言葉たちを
ひとり 胸に刻みつけようとする日が
ぼくらの暮らしには 必ず ある

あいふれた言葉のように見えるけれど
ほんとうは これらの言葉によって
ぼくらの日常も そして 生涯も
ひと知れず 試されているのだ

—— 走りぬく やいぬく 生きぬく
自分の方向を 自ら そう決めたとき
進む道を美しく照らしてくれる虹が
こころの目に はっきりと見えて来る

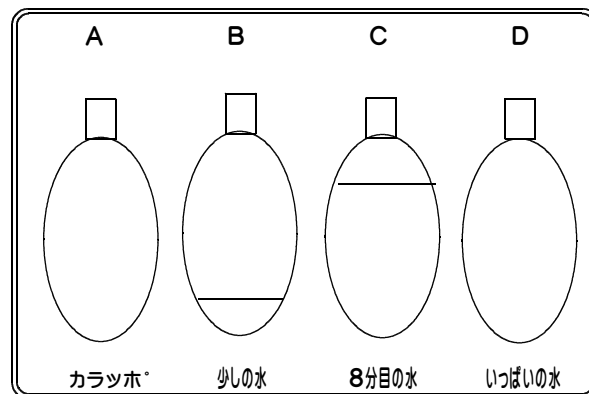
感動の文化祭(夢限大～Nothing is impossible～)終了…歓声は充実感の印

前日集会の体育館。全校321名が∞(無限大)の輪になり、テーマ「夢限大」の書道パフォーマンスに始まった文化祭が終わった。「あっ」という間に一日が過ぎ去る中、本番の日まで、みんなで創り上げてきた作品展示やステージ発表、そして、ここに来るまでの「苦しみ」を乗り越え「ホッ」とした安堵感というよりは、「やり切った」という「充実感」に満ちあふれる顔…。「以前よりも絆シャフトが太くなった人？」の問いかけに、ほとんどの人が手をあげた。どの学年もどの学年も文化祭を成功させるために本当に大切なものを追い求めたからこそ、真の仲間の大切さだったり、本物の「感動」に出会えたのだと思う。こうして全校でひとつになり熱く燃える時間を共有できたことが、これから、それぞれの学年が次の目標に向かうためのエネルギーとなるはずだ。

……3年生生徒会メンバーをねぎらう新生徒会メンバーの感謝の花束。そして、引退する3年生生徒会役員からの担当の先生への感謝の花束。まさに「絆シャフト」そのものがそこにはあった。最後に3年生生徒会メンバーの熱い言霊で感動の幕を降ろした文化祭。本当にお疲れ様！！和泉生徒会長は最後に「自分たちを超える生徒会をつくり、さらにより良い新たな市川中学校をつくってほしい」という願いを残してくれた。

人間は、中身がいっぱいつまっている時に歓声がとびだし、充実感を感じる。逆に中身がからっぽの時には、嬌声(なまめかしい声)がにじみ出て、不満をこぼしたがるものである。また、「精いっぱい」が全身をとらえた時、意識せずとも歓声はあがるし、「しらけ」が満ちてくると意識して嬌声を出したくなる。さらに付け加えるなら、自分をたよりとして人を見ると歓声が出て、人をたよりとして自分がないと嬌声が出るのだと思う。そして嬌声は奇声へとつながっていく…。ある教育者が学校を訪れて、玄関に入ったとたん「キャー」という女子生徒の声と「イエーツ」という男子生徒の声が聞こえたという。そして、その教育者は「ああ、この学校の生徒たちはまだ本当に自分を解放して、頑張っていないなあ」と直感したという。……全校生徒が一斉に動き出した文化祭週間。とっても忙しかったけれど、本番は、様々な場面で「歓声」が飛び交う「充実感」あふれる文化祭になった！…中身がいっぱいつまっていた証だと思う。

A～Dの図のように全く同じ形、大きさの空びんが4本あって、しかも透き通ったびんだとする。



Aのびんはカラッポで何も入っていない。Bのびんに少し水をいれて左右にふりまわすとポチャポチャと音をたてる。強く振ったらもつとうるさく音をたてる。Cのびんに8分目の水を入れて、Bと同じようにふってみる。やっぱり音を立てるがBよりはだいぶ静かになる。Dのびんには口までいっぱい水を入れる。Dのびんはどんなに強く振っても音がしない。それどころか、どう転がしたって、うんともすんとも言わない。AとDのびんを比べてみる。見た目は全く変わらないが、Dのびんは中身がいっぱいつまっているから、本当の充実感、本当の満足感がある。人は弱いから他人に批判されたりすると動揺する。つまり、心の内側が本当に満たされていないA～Cのびんに似ているのだと思う。

自分というものをしっかり持っていれば(つまりびんの口まで水がつまったDのびん)人からどんな評価をされたって、どんな批判をされたって、弁解することなく、自分を信じて平然としていられるのだと思う。でも、それが難しいのだけれど……。

さて、本年度も文化祭を終えることで、大きな学校行事は一区切りついた。1学期からつくりあげてきた「文武両輪と絆シャフト」の総まとめ、そしてそれらの「実り」を収穫するための11月がやってくる。自分自身の中身を「いっぱい」にしていく2学期後半がやってくる。